

# 「フードマイレージ」を知っていますか？

「フードマイレージ」とは、輸入された食べものの重さと運ばれてきた距離をかけ算して出た数値です。

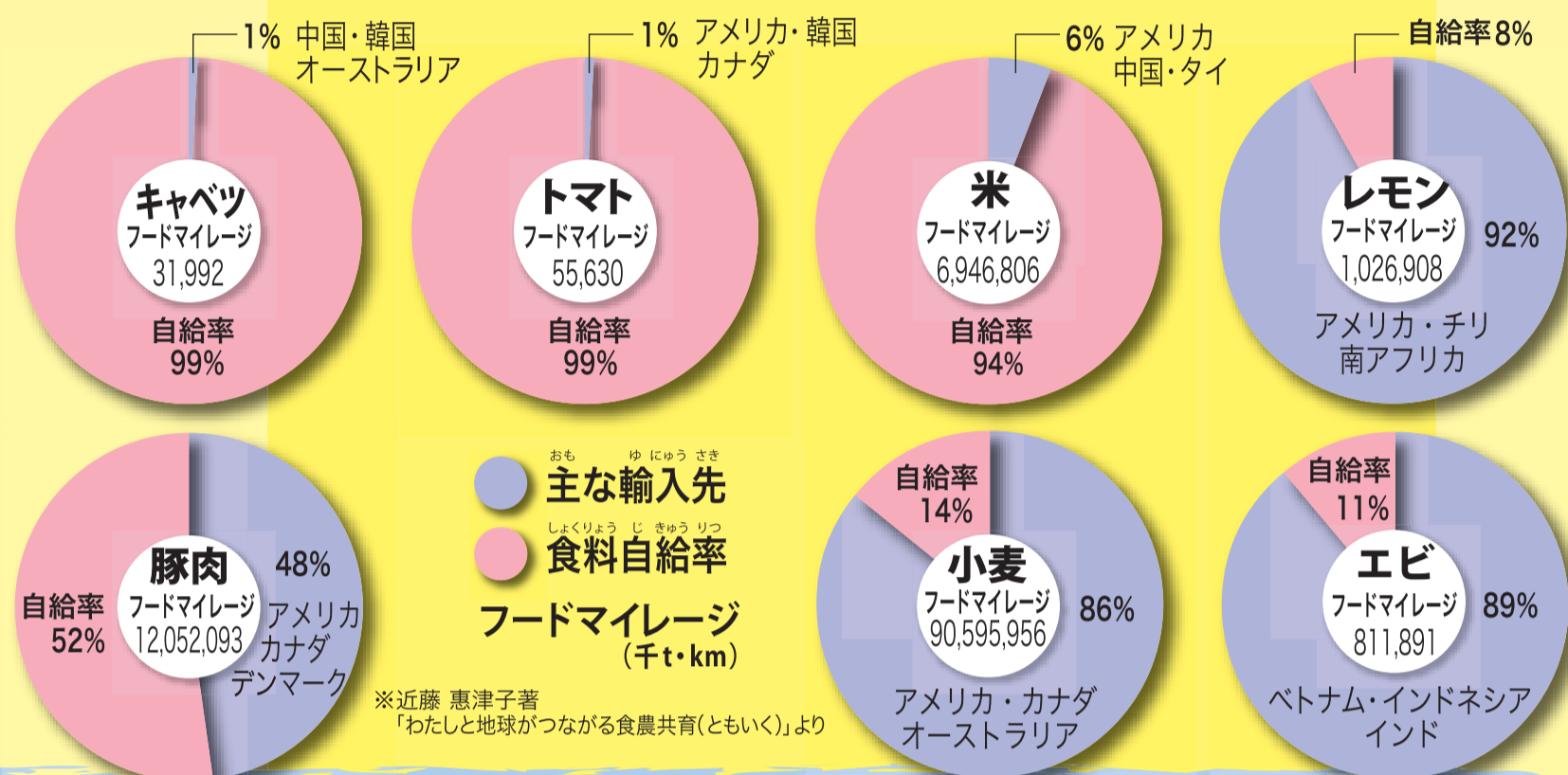
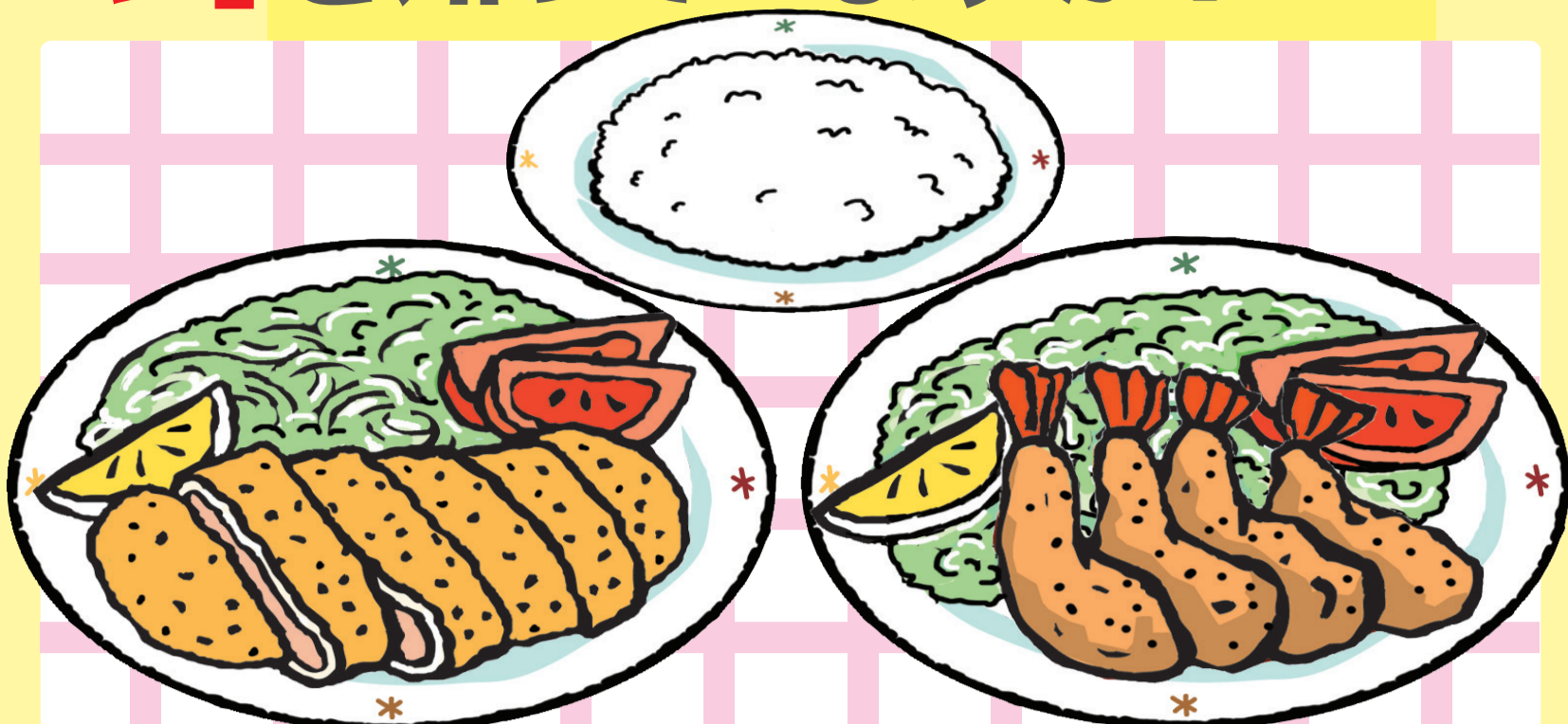
$$\text{フードマイレージ(単位:トン・キロメートル)} = \text{食料輸入量(t)} \times \text{輸送距離(km)}$$

この数値が高いほど、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をたくさん出している、ということになります。

現在、日本で輸入する約60%の農畜産物は外国から船や飛行機で運んでいます。遠くから食べものを運ぶということは、それだけ多くの燃料を使うことであり、また多くの二酸化炭素を出すこととなります。この二酸化炭素は、地球温暖化を引き起こすなど地球環境に悪い影響を与えています。

今回は、みなさんがよく食べるトンカツ、エビフライとごはんについて食料自給率とフードマイレージについて調べてみましょう！

## トンカツ・エビフライの材料は世界中から輸入されています

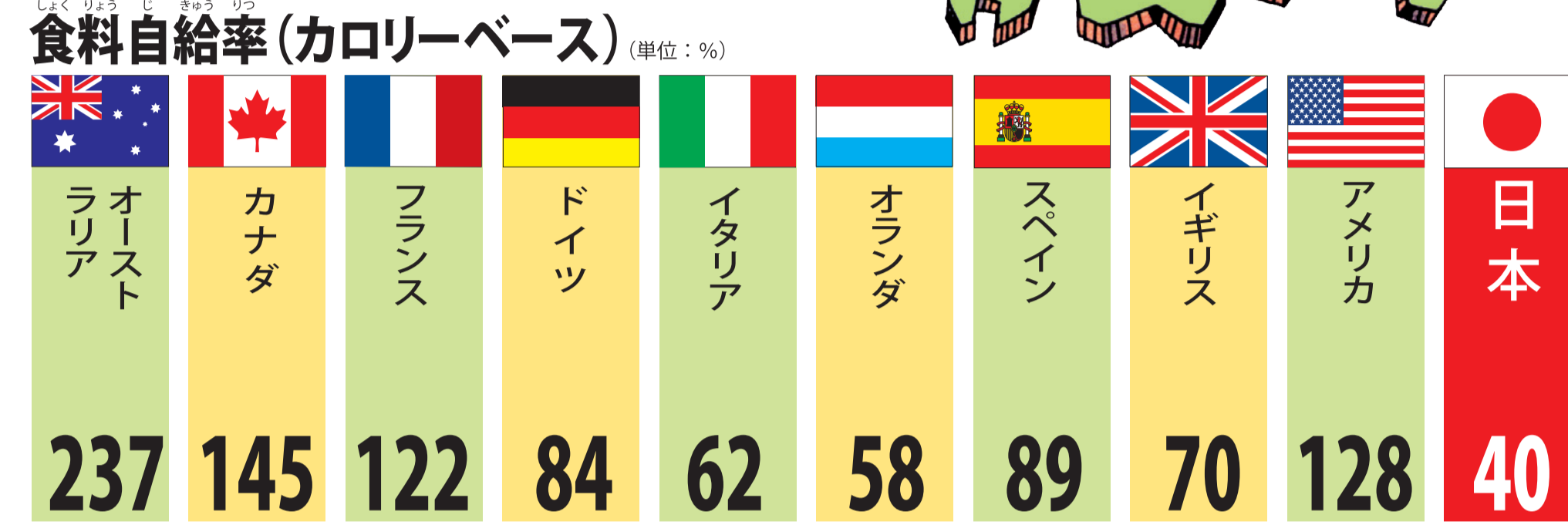


# 「食料自給率」を知っていますか？

自分の国で食べるものが自分の国でどれくらいつくられているかを表す割合を食料自給率といいます。2007年度、日本国内の食料自給率は40%で、残り60%は外国からの輸入に頼っています。したがって、日本は外国の農地や水などを使ってつくられたものを食べていることになります。(2008年の食料自給率は41%と、農林水産省から発表がありました。この新聞の中では、食料自給率40%を前提とした内容としています)

## 日本の食料自給率40% 外国からの食料の輸入割合は60%

食料自給率を世界各国と比べると、例えばオーストラリアでは237%、カナダ、フランス、アメリカでは100%を超えています。自分の国で食べるものは、自分の国でたくさんつくっているのです。これに対し、日本は現在のところ40%しかありません。この数字は主要先進国の中で最低となっています。



わたしたち「JAグループ」では、みなさんが毎日食べているものは、どこでとれたものか、また、外国から食べものを輸入すると地球環境にどんな影響を与えるのかを学んでもらうために「子ども農業新聞」をつくりました。「子ども農業新聞」を使って「食料自給率」と「フードマイレージ」について学習しましょう。

# 子ども農業新聞

## 日本の食料自給率が下がってしまった理由は…

1965年度73%だった日本の食料自給率が2007年度には40%になってしまった原因のひとつに、わたしたちの食生活の変化があります。1965年度当時は、主食であるごはんを中心とした食生活でした。しかし、社会が発展していくにつれて、ごはんを食べる量がへり、代わって副食であるおかずの割合が増え、なかでも肉や乳製品などの畜産物や油を使った料理をたくさん食べるようになり食生活の西洋化が急速に進みました。そのため、外国からの輸入が増えて食料自給率が下がってしまったのです。

### 食料自給率が低いとこまること

日本へ食べものを輸出している外国で異常気象などが発生し農畜産物がとれなくなったら、日本への輸出がストップしてしまうかもしれません。そうすると、わたしたちの食卓には日本とれる40%の食べものしか並ばなくなってしまうこともあります。

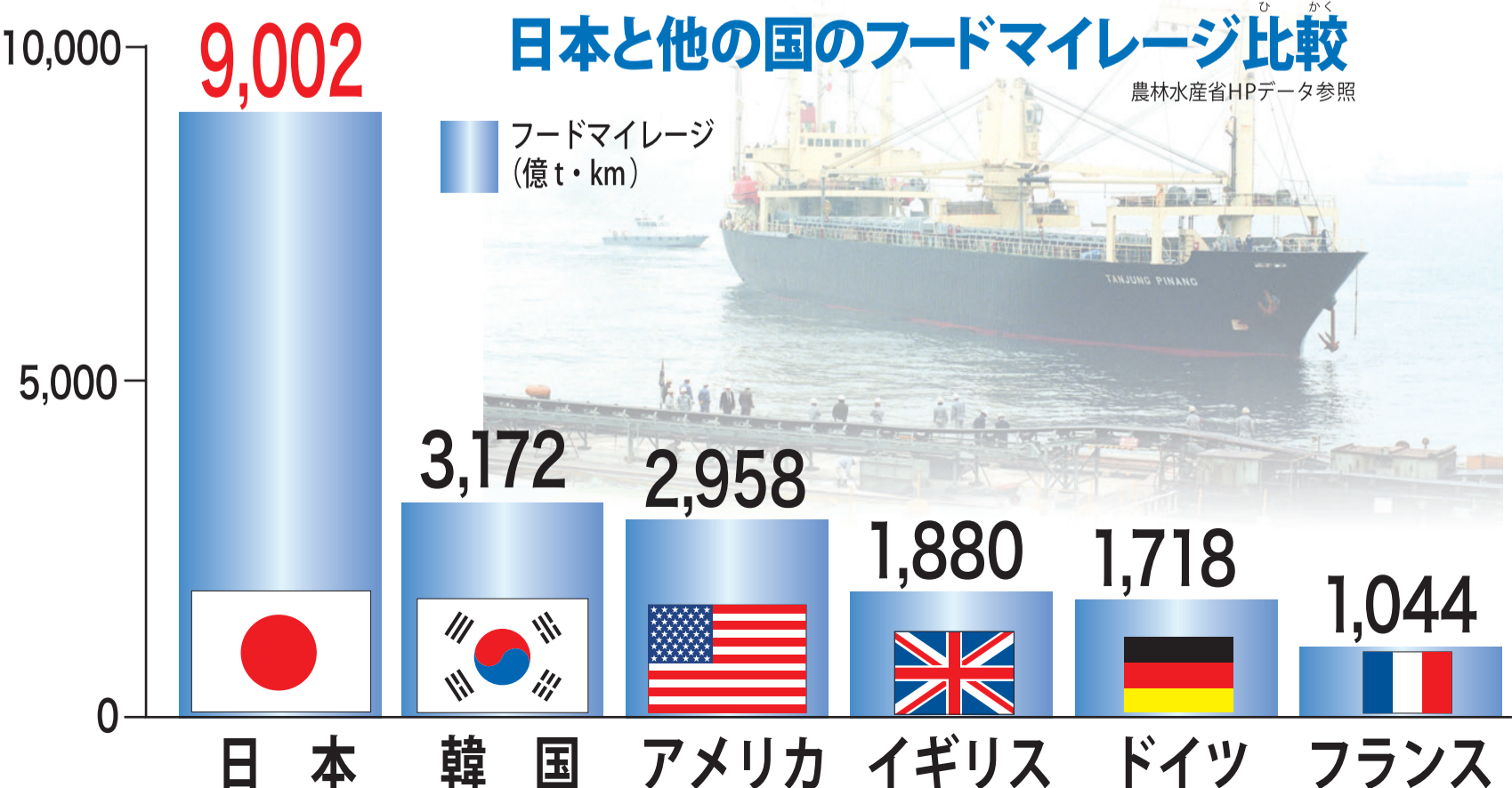
食べものは、1日たりとも欠かすことができませんから、いざというときのためにも、しっかりとした対応を考えておくことが必要です。

### 食生活はどのように変化したのかな？



## 他の国とフードマイレージを比較してみると…

日本は食料自給率が40%と低いので他の国と比べてフードマイレージがとても高いです。フードマイレージを下げて地球環境に優しい食べ方をするには、できるかぎり日本で作られたもの、旬のものを食べる(地産地消)がとても大切です。それは、食料自給率を上げることにもつながるのです。これからは、少しでも地球環境に優しい食べ方を心がけましょう。

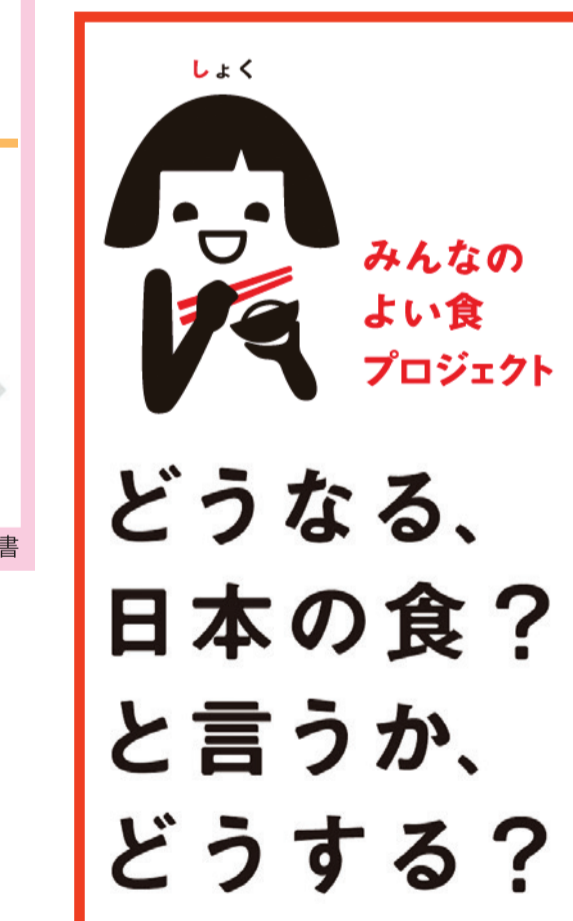


## 食料自給率を高めるために、わたしたちにはどんなことができるのでしょうか？

また、日本でつくられたものを食べるとどんなよいことがあるのでしょうか。

- ①「今が旬」のものを選びましょう。「旬」の農産物は、いちばんよく育つ時期に無理なくつくられるので、むだな手間や燃料が必要ありません。味がよく、栄養もたっぷりです。
- ②地元でとれる食材を、日々の食事にいかにしましょう。私たちが住んでいる土地には、その環境に適した農産物がそだちます。地元を食べものを選ぶことは地域の農業を応援することになります。
- ③ごはんを中心に、野菜をたっぷり使ったバランスのよい食事を心がけましょう。油などのとりすぎに気をつけ、バランスのよい食事を心がけましょう。
- ④食べ残しをへらしましょう。食べ残しをへらすことは、食べものの輸入を少なくすることにつながります。
- ⑤食べものや農業について、もっと勉強しましょう。さまざまな取り組みを知って、参加したり、味わったりして、農業を応援しましょう。

発行：JA山梨中央会  
〒400-8530 甲府市飯田1-1-20  
TEL055-223-3503 FAX055-220-1083  
URL http://www.ja-yamanashi.or.jp  
E-mail webmaster@ja-yamanashi.or.jp



参考：平成21年版ジュニア農林水産白書